

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都練馬区高野台 1-3-8
園名	ベネッセ練馬高野台保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色と造形

<テーマの設定理由>

日常の保育の中で「積み木」コーナーを設け、形の無い所から想像し、形あるものを創造する、という保育のねらい、またそこから培われる育ちを強みとして、いつもの「積み木遊び」に違った素材を加える子緒で一層興味を持ち遊びを広げたかったから「造形」に「色」を加えました。

### 2. 活動スケジュール

- ・積み木コーナーにクリアカラーの積み木を用意し、子ども達が自然と遊びの中で使う様子を見ていく。
- また、そこから子ども達の気付きを拾い、あそびを広げられる援助を行う

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

いつもの積み木コーナーに新たにクリアカラーの積み木を用意した

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・子ども達にはあえて声を掛けず、積み木コーナーにクリアカラーの積み木をおいておく。
- ・積み木で遊び始めた子ども達が新たに用意されたクリアカラーの積み木に気が付き、どんな色に見えるか積み木をのぞいてみたり、同じ色の積み木を並べてみたり、白木の積み木との違いを感じながらあそぶ。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子ども達は初めて見るクリアカラーの積み木に興味津々だった。保育者が提供する前に、いつも使っている白木の積み木と比べて色や光を意識出来るように関わった事で、子ども達からも「なんで?」「わぁ…」といった不思議に感じる声が聞かれた。また、自分達でも「不思議」を体験したくて積み木を光にかざしてみたり、目に当てて向こう側をのぞいて、色によって向こうが見えるものと見えないものがある事を疑問に思っ、保育者に尋ねる事があった。答えを言わずに「なんでだろうね」と声を掛け、どの色が透けて見えて、どの色が見えないのかを一緒に考えた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た職員の気づき>

いつもは色の無い白木の積み木で遊んでいる子どもたちの「積み木遊び」をもう少し広げたい。という思いから「色」や「光」に気付いて欲しいという思いでクリアカラーの積み木を取り入れた。保育者が考えていたよりも「色」が加わった事で子ども達の想像力が豊かで鮮やかな色の積み木を前にして連想できることが多く、様々な組み合わせでお寿司を作ったり、フルーツに見立ててごっこ遊びを展開していた事は予想外だった。白木で「積む」事が主になる遊びとクリアカラーの積み木とは遊び方自体に違いがあると感じた

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都練馬区高野台 1-3-8
園名	ベネッセ練馬高野台保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

日常の保育の中で行っている絵本の読み聞かせて「影絵」の絵本を読んだ時に「どうして影が出来るの」という子ども達の質問から絵本の内容を保育に繋げる・・・という園の保育のねらいにも合致すると思い、「光・影」に決めました。

### 2. 活動スケジュール

- ・改めて影絵の絵本を読み聞かせる
- ・子ども達とどうしたら「影」が出来るか話し合い、スクリーンとプロジェクターを準備し、影の投影を経験する
- ・自分たちで「影」や「光」を使ってあそぶ
- ・年度末の「お楽しみ会」の発表を見据えて「影絵」作りを楽しむ
- ・「お楽しみ会」で影絵クイズを自分たちで考え発表する

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

- ・大型スクリーン
- ・クリスタルのカラープレート
- ・プロジェクター（光）

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・ 影絵の絵本を改めて読み聞かせる
- ・ 大型スクリーンを使って手や身体で動物などを表現して影の様子を知る
- ・ クリアカラースクリーンを光に透かして色の変化や光、影の様子を知る

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ まず大型のスクリーンに自分たちの影が映るとに驚いたり喜んだりしていたが友だちと一緒に写り込むと影が繋がる事に面白さを感じていた。
- ・ 中々上手く形を作れない子どもが居たので影絵の本を傍に置いてみると（保育士が）気付いた子どもが見始め、4～5人が集まり「こうだね」「こうやると〇〇になるんだ」と確認してはスクリーンの前に立って試していた。
- ・ カラースクリーンに光をあてて、電車や家など形を写す事を楽しんでいた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た職員の気づき>

- ・ 子ども達から「どうして影が出来るの?」という質問から始めた取り組み。  
はじめは自分たちの身体を写して驚いたり楽しんでいたりしていたが「影絵」を自分たちで経験して欲しいという思いから絵本を置いた事で子ども達が自らページを開き、ああだねこうだねと話しながら影絵を楽しんでいる姿が見られた。子ども達だけで楽しむ場面がたくさん見られ、共同性、協調性を育める時間になったと感じた。